

もっと身近に感じてくください

形成外科とは？

形成外科の特徴は、けがや病気によって失われた身体の形態や機能を、主に外科的技法を用いてできるだけ正常に修復することです。

治療を受けて頂いた患者様の中には、形成外科を初めて知った方も多くおられます。形成外科医からの啓蒙活動が足りないのかもしれないですが、当科の事をよりよく知って頂ければ、あらゆる場面でお役に立てる機会が増えることと思います。この場をお借りして、ご紹介させて頂ければと思います。

より美しくより楽しい生活をして頂くために、手術手技のみならず、本来持ち備わる自然治癒力を引き出すお手伝いをすることが最大の使命と考えています。

痛い治療から
痛くない治療へしみ、あざは
レーザー治療で！

いわゆる、シミ・アザでお悩みの方も多いと思います。健康保険が使えないと思われがちですが、外傷性色素沈着・太田母斑・異所性蒙古斑・血管腫（赤アザ）などは、保険適応になります。加齢によるシミは保険適応になりませんが、当院で使用しているアレックスレーザーで対応可能です。レーザー照射の際、ゴムで弾かれたような痛みを伴います。しかし、麻酔テープを予め貼っておくことで痛みを軽減できます。まずはご相談を。

（月・火・水・木・金曜 午前中、自費診療になる場合もあります。）

新たな試み、
多血小板血漿療法！

たけこょうだけつしょう
多血小板血漿とは、血液を遠心分離することで得られる血小板を多く含むだ血漿分画のことです。もっと簡単に言うと、ご自身の血小板が多く含まれた液体のことです。多くの細胞成長促進因子を含むこの血小板は、組織再生・創傷治療過程において欠かせない存在です。難治性皮膚潰瘍の部位に作用させ、創傷治療を促進させるのが多血小板血漿療法です。

ご自分の血液から得られた製剤のため、未知なるウイルス疾患や感染症にかかる心配がありません。難治性皮膚潰瘍でお悩みの方は一度ご相談下さい。

（木曜 午前中）

巻き爪も楽に解消！

巻き爪の痛くない新しい治療法をご紹介します。従来では、巻いている爪の両脇を切る治療が主流でした。

術後の数日間は痛みを伴うため、患者様には多少の我慢をして頂いていました。他に痛くない治療法はないのでしょうか？

また、痛みを感じることもなく・出血もないVH O式巻き爪矯正治療も行っています。爪の両脇にワイヤーを引っ掛けるだけです。施術当日から入浴・運動が可能です。日常生活には全く支障がありません。ずっと巻き爪に悩んでいる方は、一度ご相談ください。（水・木・金曜 午前中、自費診療になります。）

*印のものは自費診療になる場合があります。

形成外科疾患

- 外傷…顔面骨の骨折(鼻、顎、頬骨など)、顔・手・足・体幹の表面の傷・傷跡・引きつれ、熱傷(やけど)・熱傷後の傷跡・引きつれ・変形、褥瘡(床ずれ)、難治性皮膚潰瘍
- 皮膚・皮下腫瘍…ほくろ、あざ、いぼ、できもの等の良性腫瘍、皮膚の悪性腫瘍、腫瘍切除後の変形・欠損
- 生まれつきの病気…赤あざ、茶あざ、あざ、太田母斑、顔面・手足の異常・変形
- その他…腋臭症(わきが)、多汗症、巻き爪*など
- レーザー治療…しみ*、脱毛*など